

# 金研物語

先達との  
出逢い

きんけんものがたり

## RIISOM から IMR へ —1987年の改組と改称

平林 眞



写真：Historical Landmarkの記念碑文

金研が英語名をInstitute for Materials Research (IMR)と決めたのは、全国共同利用型研究所に改組した1987年(昭和62年)5月です。それから約20年、KINKEN = IMRは国内外で広く認知されましたが、一方では昔の名前を知らない世代も多いと思われるので、改称の経緯を記すことは意義があるでしょう。

金研のはじまりは、1916年(大正5年)4月、本多先生が住友家からの寄付金をもとに、東北帝国大学理科大学物理学教室内に置いた臨時理化学研究所第二部であることはよく知られていますが、その英語名についてはあまり知られていないようです。私も永年、理化学研究所(RIKEN\*)の英語名(Institute of Physical and Chemical Research, IPCR)か、それに近い名前が使われたのではと推測していましたが、本多先生はAlloy Research Institute(ARI)と名づけていたようです。臨時理化学研究所からの最初の論文(炭素鋼の可逆変態の温度について；東北帝国大学理科報告、Sci.Rep.Tohoku Imp.Univ. 5(1916)285)には、The first report from the Alloy Research Instituteと注記されています。以来「理科報告」とそれを引き継いだ「研究所報告Sci.Rep.RITU」に掲載されたKINKENの論文には、英語名に関係なく、一連の通し番号が付けられました。

1919年(大正8年)鉄鋼研究所になってからは、Iron and Steel Research Institute (ISRI) が用いられ、有名なKS磁石の論文

(理科報告9(1920)417)はISRIの第43報として発表されています。しかし、1988年にAmerican Society for Metals (ASM) Internationalから贈られたHistorical Landmarkの記念碑文には、Research Institute for Iron and Steelと記され(写真参照)、両方が使われていた可能性もあります。1922年(大正11年)金属材料研究所となってからは、Research Institute for Iron, Steel and Other Metals(RIISOM)が60年以上用いられてきました。

1920年代のKINKENの研究の主流は鉄と鋼で、ジュラルミンや真鍮などに関する論文が出始めた状況でしたから、Iron, Steel and Other Metalsは研究の実態を表し、設置目的の「鉄鋼その他金属および合金に関する学理および応用の研究」に正に合致するものでした。しかし、戦後、研究分野が広がるとともに、RIISOMは実態とかけ離れ、国際的にも適正な評価を受けられないから「名は体をあらわす」ものにしたいという願望が次第に強くなりました。共同利用型研究所への移行に当たって設置目的を変更して、材料研究の将来を考えKINKENの研究対象を金属だけに限定せず、「材料科学に関する学理および応用の研究」としましたが、これに相応しい英語名については、いくつもの候補を挙げて議論しました。Research Institute for Materials Science and Technology等々、あるいはMax Planck や Laue-Langevinなどにならって個人名“K. Honda”を冠する案も出ました。

結局「長い名前の研究所」としても著名であったRIISOMに比べて、短く・広く・簡潔なものがよいなどの意見で、IMRに決まったように憶えています。また、“金属材料研究所”についても、いろいろ議論がありましたが、KINKENは永く定着した固有名詞である上、源流が金属であることは替わらないと云うことで、英語名だけの改称になりました。

おわりに、設置目的の変更と共同利用型研究所への改組を決める段階で開かれた名誉教授との懇談会について触れたいと思います。改組と改称は、KINKENの大転換であるから、名誉教授の意向を伺い理解を得なければならぬということ、日時は定かではありませんが、本多記念館の会議室(現所長室)に増本(量)先生をはじめ先輩の諸先生に集まって頂きました。名誉教授の方々からは、時代の要求に適い材料研究の発展を促すものであらうと概ね賛意を示され、また励ましの言葉も頂きましたが、その端はしにKINKENへの強い想いが伝わり、責任の重さを痛感させられた懇談会でした。

なにぶんにも20年も昔のことですから記憶も怪しくなり、誤りもあるかもしれませんが、ご寛容下されば幸いです。

\*財団法人理化学研究所の発足(東京駒込)は1917年で、臨時理化学研究所とは別の組織です。